

1 議事

(1) 令和7年度夏季企画展の視察

【委員】

- ・ はじめてポケモンの企画展を見たが、思った以上に盛況だったことが印象的だった。小さい子ども連れの親子の来館が多かったように見えた。
- ・ まずはポケモンが何かを知らないと、現実とポケモンが混ざってしまい、意味がよくわからなくなってしまった。賑わっていることは大変よいことだと思った。
- ・ 思った以上に、朝早くから家族づれを含む来場者が多く、よかったと思う。入場しないと購入できないグッズの販売もよいと思った。
- ・ 実物大のポケモンのキャラクターの展示があって、写真映えする企画展だと思った。先日に来館者2万人を突破したということで、これからもさらに増えることを期待している。
- ・ ポケモン展は巡回展示であり、福井県立恐竜博物館でも17万人の来場があった。こうした企画力のあるコンテンツが、いかに入館者数に結び付くのかを実感したと思う。過去の企画展との違いが浮き彫りになると思うので、市も含めて参考にしていきたい。
- ・ 地元の間人として、いつも駐車場がいっぱいで、ポケモンおそるべしといったところである。小さい子どもが喜んでいるため、よかったと思う一方で、手狭な空間で、これだけのお金をとるのかとも思った。
- ・ いつ来ても親子の来館がみられ、よいコンテンツだと思う。前回までは距離が遠いということで、集客が難しいことを言われていたが、今回の企画展示の状況を見ると、距離というハードルを越えられたのではないかと思った。ショップもヒアリングしたところ、非常に売り上げが良いとのことで、よかったのではと思った。
- ・ 今までの企画展とは違う印象を受けた。ポケモンということで、子ども向けのように感じたが、実は細かく見ていくと、学術的な内容も豊富にあった。それらの子連れの親が読み取ることは難しいため、解説などで、補助をしてあげると、より充実した展示になると思った。

(2) 令和6年度事業報告

〈指定管理者と事務局より説明〉

【委員】

- ・ ミュージアムショップは店頭の2名で運営しているように見えたが、人件費が人材派遣費と人件費に分かれていたが、理由は何か。また、ショップは400万円ほどの損失を出している。通常、ショップは儲けがあるものと認識しているが、どういうことなのか？

【指定管理者】

- ・ 人材派遣費は、共同企業体を構成する企業で、店頭での販売等を担当している長崎ダイヤモンドスタッフの職員の給与として支出した。人件費については、共同企業体の代表企業であり、経理等を担当している大成不動産の職員の給与として支出した。なお、館長を含む大成不動産の職員の給与は、博物館の運営業務の委託料からも支出しているが、市との協議のうえで、館長らにかかった人件費の総額のうち、ショップに関する業務をおこなった割合を按分する形で、ショッ

プの経費としても支出した。

【委員】

・このような人件費の支出について、市として会計上問題がないということなのだろうか。博物館委託料の収支報告書の説明で、人件費を減額し、効率的に人を配置することができたと言っていたことと、ショップの人件費と損失は、整合性が無いように感じている。このように400万円もの損失を出したのは今年だけなのか？

【指定管理者】

・令和6年度が初めてである。ミュージアムショップについては、指定管理者の責任で運営することになっており、収益があがるように取り組んでいたが、博物館の総入館者数が目標に達しなかったことが影響したものと考えている。

【委員】

・人件費は、ショップの売り上げを伸ばすために支出しているもので、総額1700万円も支出しているにも関わらず、こんなにも売り上げが落ちてくるものなのかと疑問に思っている。

・市職員も関与している教育養成プログラムについて、満足度はどうだったのか。

【指定管理者】

・参加者8名中、6名が大変満足という結果だった。

【委員】

・参加者の目標人数が20名で、半分にも達しておらず、魅力があるかどうかについて、検討の余地があると報告されていたことから、満足していたというのはよくわからない。

・宿泊体験学習については、アンケート調査の結果、半分以上の学校が「非常に満足」や「やや満足」という回答だったが、「どちらともいえない」や「やや不満」、「非常に不満」と回答した学校もあった。このことについて、どういうことか分析したものが記されておらず、次年度への改善の方向性が見えない。令和6年度の総括としては提示すべき。

【事務局】

・アンケート調査は市が、3月末に実施したもので、結果の共有をした段階にとどまっており、解析が十分にできていなかった。そのため、指定管理者とも情報共有しながら改善に努めたいと考えている。

【委員】

・修学旅行者数が、目標の1000人に対し、377人となっている。その理由として、市街地から遠く、時間がかかるからというのは、すでにわかっていたことである。また、軍艦島に行けなかったから博物館に来たというのは、軍艦島がメインという考え方で、博物館はついでということになる。軍艦島とセットでも構わないが、どうすれば博物館に来てもらえるのかを考えて、内容を検討してほしい。

・先ほど話題になった宿泊体験学習に対する不満について、多くは距離的な問題だと感じている。琴海地区などの遠方からくる場合は、時間的に生徒の活動が制限されることから、多少なりとも不満があるのではないかと感じている。アンケート調査については、もう少し内容を問うようなものにしてはどうか。

・自身が所属する学校で、6年生の93人に、5年生の時の宿泊体験学習について尋ねたのだが、その後、再び恐竜博物館を訪問したのは2人で、学生の感想としては、「シートを持って大体のも

のは見てしまった」や「博物館はもっと広くていろいろなものがあると思っていた」と話していた。保護者の意見として印象的だったのが、「なぜ、長崎市に恐竜博物館があるのかわからない」というものだった。そのため、地元で恐竜博物館がある理由が十分に周知できていないのではないかと感じた。

・修学旅行について、佐賀県と福岡県の小学校の校長に尋ねる機会があったが、どこも恐竜博物館に来ていなかった。長崎市の魅力は、市街地に観光施設がコンパクトな範囲にあり、恐竜博物館まで足を延ばす想定はないとのことだった。グループ活動でも、候補としては紹介しているが、これまでに希望者はおらず、移動時間だけで活動が制限されることが要因だと考えられる。これらのことから、修学旅行生をターゲットとするならば、もっと具体的な学習コンテンツが必要だと感じている。

(3) 令和7年度運営状況

〈指定管理者と事務局より説明〉

【委員】

・ファンクラブの入会金はいくらか。

【指定管理者】

・大人は一人5000円で、子どもは一人3000円である。

【委員】

・ジュニアドクター育成塾の人数は何人か。

【事務局】

・基礎コースの定員が40名である。また、必要な単位を取得し、進学して研究を希望する受講生は、マスターコースを受講することができる。恐竜博物館で研究しているマスターコースの受講生は5名である。

【委員】

・令和7年度に運営状況の中で、最も大きな成果ともいえるナチュラリス生物多様性センターとの姉妹館提携が資料に記されていないのはなぜか。

・令和7年度の4月から6月の記者投げ込みが4回で、昨年度の9回よりも減っている。また、昨年度4月の50万人達成については投げ込みをしていると思われるが、3周年イベントを行った10月ごろには投げ込みがないようである。こうした節目やイベントは、投げ込みをするチャンスであるが、令和7年度は大きく改善する計画はあるか。

【事務局】

・ナチュラリス生物多様性センターとの姉妹館提携について、資料への記載が漏れていた。長崎市とオランダの歴史的な関係や、恐竜博物館とナチュラリス生物多様性センターとの共同事業の実施を踏まえ、今後の連携を強化する目的で、同センターのナチュラリスのエドウィン・ファン・ハウス館長の来崎に合わせて、4月23日に姉妹館締結を行った。このことについての記載と報告が漏れていたことを深謝する。

【指定管理者】

・あらゆる機会を見つけて記者クラブなどへの投げ込みを行っているが、令和7年度も引き続き、粘り強く取り組んでいきたいと考えている。

(4) その他（今後の企画展について）

〈指定管理者より説明〉

【委員】

- ・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）実物の展示を中心とした、地に足のついたテーマで、非常に面白い企画だと感じた。しかしながら、長崎市の新地中華街を取り上げるのではなく、長崎市に恐竜博物館がある理由を説明するためにも、当時の日本と中国の位置関係や地層のことなどを紹介することで、よりダイナミックな内容とした方がよいのではないか。
- ・（海の古生物を取り上げる企画展について）展示物として検討しているプテリゴタスやユーリプテルスはウミサソリの仲間だが、淡水の生き物である。展示することは構わないが、テーマとの整合性について十分に検討した方がよい。
- ・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）目的に、中国に対する長崎の地の利や関係性などが記されているが、強引にねじ込んでいる印象で違和感がある。そのため、純粋な自然科学のテーマに即した目的に変えた方がよいのではないか。
- ・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）令和8年度春季企画展と書かれているが、開始時期が令和7年度の3月であることから、令和7年度の事業にもなるのではないか。

【指定管理者】

- ・これまでも年度をまたぐ企画展については、経理的な部分も含めて、どちらの年度に属するものなのかを、市と協議したうえで決定している。そのため、この企画展については、令和8年度の事業として準備している。

【委員】

- ・今夏公開予定のジュラシックワールドと連携した企画の方がよいのではないか。昨年末のドラマで、「海に眠るダイヤモンド」が放送された際に軍艦島を見るための観光客が増加した。そのような企画の方がよいのではないか。

【指定管理者】

- ・今年度も映画館で、企画展のCMを放映することを検討したが、内容がポケモンであったことから、見送った経緯がある。しかし、今後も映画関係との連携を行っていきたいと考えており、メディアを使った広報は重要なこととして認識している。

【委員】

- ・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）中国から標本を借りてくるのではなく、国内にある中国産の標本を集めるということか。

【指定管理者】

- ・そのとおりである。

【委員】

- ・先日、中国の恐竜博物館に行ったばかりであったため、海外から標本を借りてきて展示すると、さらに面白くなるのではないかと感じた。また、中国の研究者と連携して企画することができれば、もっと学術的なものにもなると思う。
- ・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）龍踊と書かれているが、実際に龍踊はしないのか。

【指定管理者】

・長崎らしい取り組みとして、龍踊の実施も検討しており、具体的なところには相談しているが、現段階では企画の段階で流動的なものである。

【委員】

・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）様々な来館者がいることから、中国との関係などは、描き方に十分に気を付けてほしい。むしろ、長崎のメディアは、龍踊などの映像をもっていることから、長崎の情報を多く反映させた方がよいのではないかと感じた。

【指定管理者】

・文化的な背景などを企画書に記しているが、担当職員には自然史の切り口に修正するように指示している。

【委員】

・もう少し子どもの目線で企画を考えてほしい。

【指定管理者】

・運営協議会では、学術的な視点での意見を伺うことを目的として資料を作成したが、エンターテイメントとしての切り口も考慮したうえで、最終的な提案を行いたいと考えている。

【委員】

・（中国の恐竜等を取り上げる企画展について）目的に書かれているような恐竜と新地中華街がつながらない気がする。そのため、中国だけでよいのではないかと感じた。

【指定管理者】

・提出した資料が古いバージョンだった可能性がある。繰り返しになるが、自然史の切り口で修正するように指示していることから、そのような視点で作り上げていきたいと考えている。

【委員】

・これまでの企画に比べて、地に足がついた企画となっていることから、細部が欠けて、全体を棄損することがないように、気を付けて取り組んでほしい。

【委員】

・特別展の企画が、施設の入館者数を大きく左右する。今年のポケモンのように、強力なコンテンツや魅力があれば、入館者数に結びつくことを施設としても実感しているのではないかと思う。他の委員からの指摘にもあったように、来館した子どもたちに、全部見てしまったと思わせないように、また行ってみたいと思ってもらえるように取り組んでもらいたい。

【委員】

・長崎の人に恐竜博物館があることを誇りに思ってもらえるような周知に努めてほしい。科学館で行われている科学の祭典のような場所で、毎年産出した化石を紹介すれば、集まった子どもたちにもわくわく感が伝わるのではないかと思う。

・（海の古生物を取り上げる企画展について）トークイベントを検討している長濱ねるさんは、長崎市出身だったと思うが、科学館の名誉館長の草野仁さんのように、著名人の力を借りて周知することも大切だと思う。

【事務局】

・市内の子どもたちにリピーターになってもらうことは重要なことであり、宿泊体験学習を通して長崎市産化石のことを周知してきたが、もっとそれらの魅力が伝わるように取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

・他の評議会に参加して感じたのだが、運営協議会の委員が、講演会などの博物館のイベントに参加する機会があった方がよいのではないかと感じている。委員の負担は増えてしまうが、紙の資料に基づいた評価ではなく、内容についての具体的な評価につながるのではないかと感じている。

・最近では博物館の利用の仕方が変わりつつあると感じている。かつては強制導線で、ストーリーに沿って展示されたものを、最初から最後までじっくり見てもらう構成だった。そのような場合、精神的にも肉体的にも疲れてしまうことから、そのような見せ方から離れた方がよいのかもしれない。強制導線・自由導線いろいろあるが柔軟に対応していったほうがよい。この館は狭いことを逆に1点でも集中して丁寧に解説するということがあってもよいのではないかと感じている。1回来て終わりではなくそういう意味でリピーターを増やす仕掛けも必要では。博物館のあり方を時代に合わせて考え直す必要があると感じている。従って、若い世代の学芸員の意見を取り入れた方がよいのかもしれない。

・ポケモンの企画展のように、見てほしい来館者の視点で楽しめる展示を取り入れていくことも必要だと思う。

・一点でも印象に残るような展示ができれば、成功なのではないか。

・長崎市に対する要望だが、博物館だけの魅力で人を集めるのは限界があると思う。そのため、公園の遊具を更新したり、季節の花を植えたりすることにも市として取り組んでほしい。

【事務局】

・パーク全体が盛り上げるために、どのような取り組みが必要なのかを市としても考えながら、地元の意見も伺い、連携して取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

・県としても初めての自然史系の博物館だと思うが、他館への視察数が少ないと感じた。九州でさえ、同等の博物館がいくつもあることから、もっと他館への視察を増やして、集客の工夫や自然史資料に係る課題や地の利の克服などに努めてほしい。また、市として、今後、どのような施設にしていきたいのかを運営協議会で委員にも示してほしい。

【事務局】

・指定管理期間が来年度末で終わることから、これまでの取り組みを考慮し、指定管理者制度のメリットとデメリットを精査する必要がある。その際に、他館の状況を参考にさせてもらうことがあると考えているため、これからも協力をお願いしたい。

以上